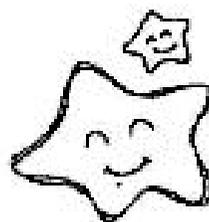


# QSK にぬふあぶし

No.280

ね  
子の方向の星



## 緊急事態宣言に思う

沖福連会長 山田 圭吾

このところ、世界中で恐怖をまき散らしている新型コロナウイルスですが、県内でも感染者が急増し、大きな混乱におとしられています。

そのような中、これまでほとんど意識されていなかったのに、マスク姿を見るのが普通になり、様々な施設で入出時に手指の消毒をするのも慣れてきました。衛生面からはこのような習慣はこれからも続けた方がいいかな、とも思われます。

しかしながら、不要不急の外出自粛が要請されたことで、各地の沖福連関連事業所でも職員はこれまで経験のない状況に大きな戸惑いを隠せません。また、利用者の皆さんも多くの不便を強いられていることに、一日も早い終息を願うばかりです。

ウイルスには誰が感染しても不思議ではないと言われていますが、いつ、どこで、誰から感染するか、あるいは自分自身が感染源になるのではないかと不安は、ウイルスによる感染ばかりでなく、周囲の人々に対する疑念を抱かせ、お互いを監視し、繋がりを拒絶してしまうことにもなりかねません。しかし、私たちは社会の中で生きる以上、他者との関係を断ち切ることはできません。それぞれの立場で、それぞれのやり方で、この困難を乗り越えていきたいものです。

これまでの精神科の病に対する状況も、原因が見えないからこそその過剰な警戒心が偏見・差別につながったのではないとも思われます。しかし精神科の病も誰でも発症する可能性がありますし、今はそれぞれの症状に応じて入院から通院になり、社会生活ができる人も多くいます。このコロナ騒ぎがいつ終息するかわからない中で、各施設利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、皆が共に喜びをもって生きる社会の実現のためにこれからも活動していきましょう。

## 宜野湾市地域活動支援センター

はいたーい！ 新型コロナウイルスが流行っているなか、宜野湾市地域活動支援センターはぴわんでは、利用者さんのためにマスクを作って販売しています。1枚200円です。

早いもの勝ちで在庫も残り少なくなってきたため、生地を買い足しに出かけましたが、手作りマスク向けの生地は売り切れ、耳にかけるゴムも売り切れていました。はぴわん布マスク増産出来ず・・・。



は  
ぴ  
わ  
ん  
便  
い



ですが、着なくなった古着を持参して、マスクを作る方もいます。



はぴわん利用者さん限定となりますが希望される方には作り方をレクチャーしていますよ。ミシンもあります！

※今回の記事は、はぴわんのブログ『HAPPY♪GINOWAN』にも載っています。検索してみてくださいね。

(はぴわん 江洲)

## 「闇から光へ」写真展

私宅監置に関する写真展が、昨年11月14日から17日まで宮古島市で開催されました。わずか4日間の期間中、840名余が来場し、関心の高さをうかがわせたものでした。

前年4月の沖縄県立博物館・美術館での開催以来、「いつ宮古地方でやるのかと待ちかねていた」という方もいて、お世話いただいた「ふれあいプラザ宮古」の職員や家族会の皆様を喜ばせました。

閉じ込められていた人の顔を見つめ、じっくりと説明文を読んだりする人や、現存する「監置小屋」のレプリカを恐る恐るのぞき込んだり、入ってみて体験する人たちも多くいました。「小さい頃に見た」とか「私の住んでいた島にもいくつかあった」との証言も寄せられましたが、地域で問題なく共に暮らしていた人が「治安維持」の為と称して、「動物以下」と言われるほどの暗く不衛生な場所に十年以上も閉じ込められていたこと、中には死亡したことでしか出られなかった人もいたことを知り、閉じ込められた人や、そうせざるを得なかった家族への思いを涙ながらに分かち合う姿も見られました。

開催を知った中学校の先生が生徒たちと一緒に見学にこられたことは、これからの活動への大きな励みになりました。

山田 圭吾



## 家族による家族学習会 担当者養成研修会 in 沖縄を振り返り

読谷村家族会会長 糸数 勉

2020年3月21日(土)、金武社会福祉センターで実施された「家族による家族学習会」担当者研修(&アドバイザー研修)に参加してきました。

午前中はまず、「家族による家族学習会」がどのようなものを学びました。

「家族による家族学習会」は、精神疾患をわずらった人の家族を参加者に迎え、同じ立場の家族が担当者として進行する、10人~15人ほどの小グループで行なうプログラムです。1回3時間で全5回の講座が基本となります。

家族当事者としてのそれぞれの体験と、テキストによる専門的知識の両方を組み合わせた学習スタイルで、参加する家族と担当する家族、ともに体験談など話し合いがなされます。

知識や対応方法を学び、また孤立せずに仲間を作ることができる、こういった講座に参加することでできると、家族自身が回復していくことができると思いました。

また午後からは、学習会の流れや準備についてなど、1日がかりの研修でした。

今回の担当者研修を通して、家族だからできるコミュニケーション、社会的役割を見出し、新たな生き方を見つけることができました。



### ◎編集後記◎

在宅ワークというものをやってみて思ったことは、「余白」の大切さです。通常の職場環境にはいろいろな人がいて、言ってみれば雑音や余白が多く、それは本来、無駄な部分にも思えます。でも自宅で淡々と仕事だけをしていると、そういう無駄な余白こそ、人にとってより大切なもののようにも思えてくるのでした。(増山)

編集：公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会  
会長 山田 圭吾

〒901-1104 島尻郡南風原町字宮平 206-1  
てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 2-2-18

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)